

# 2006年3月期 決算説明会

2006年5月12日

日本郵船(株)



**NYK**LINE  
NIPPON YUSEN KAISHA



トコブイノベーション。イノベーション。

# 風雲見に、 なる。



日本郵船

Bringing value to life. モノを選び、モノの新しい価値を創造する仕事。

# 目次

---

- 1) 06／3期 決算 (P.3 – P.5)
- 2) 07／3期 業績予想 (P.6 – P.9)
- 3) セグメント別状況 (P.10 – P.13)
- 4) トピックス
  - New Horizon 2007の進捗 (P.14 – 16)
  - NCA Phoenix Project (P.17 – 19)
  - 郵船ヤマト 戦略的提携 (P.20 – 23)



# 2006年3月期 決算サマリー

## 1) 売上高・純利益は、過去最高！

(億円)

		売上高		営業利益		経常利益		純利益	
05/3期		16,061		1,614		1,548		713	
06/3期		19,293		1,405		1,405		921	
増減	%	3,232	20%	-209	-13%	-144	-9%	207	29%

- 2) 海運業部門：定期船市況の悪化と燃料油高により減益
- 3) 非海運部門：New Horizon 2007に沿った利益改善を達成
- 4) 為替・燃料油：(05/3期 vs 06/3期・期中平均比較)  
 為替レート ¥5.63の円安 (¥107.46 → ¥113.09)  
 燃料油価格 \$89.24/MT高 (\$193.84/MT → \$283.08/MT)
- 5) 配当予想：期末配当9円、年間18円を維持

# 前期比増減分析

(億円)

円安	96	@ ¥ 113.09 / ¥ 5.63の円安
燃料油高	▲ 268	@ \$ 283.08 / \$ 89.24の燃料油高
海運市況変動など	▲ 124	運賃率(マーケット)、積高増など
非海運部門の改善	66	非海運5部門合計
コスト削減	116	海運 89億円、非海運 27億円
新規連結	▲ 30	海運 +2億円、非海運 ▲32億円
合計	▲ 144	

## 経常利益(年間)に対する感応度

為替 1円の円高で約 17 億円の減益

燃料油 \$1/MTの燃料油価格上昇で約 3 億円の減益

# 2006年3月期 前期比較 (セグメント別)

06/3期決算

(億円)

売上高	定期船	その他海運	物流	ターミナル	客船	不動産	その他	消去・全社	連結
05/3期	4,570	5,718	3,572	1,090	334	130	1,467	▲ 820	16,061
06/3期	5,392	6,777	4,264	1,115	408	125	2,343	▲ 1,131	19,293
増減	821	1,059	692	25	73	▲ 4	876	▲ 311	3,232

経常利益	定期船	その他海運	物流	ターミナル	客船	不動産	その他	消去・全社	連結
05/3期	450	1,011	81	4	▲ 48	33	16	0	1,548
06/3期	175	1,082	130	22	▲ 2	34	▲ 37	0	1,405
増減	▲ 275	71	49	18	46	1	▲ 53	▲ 0	▲ 144

(売上高)	06/3	05/3	増減
不定期船	5,641	4,639	1,003
タンカー	1,136	1,079	57
計	6,777	5,718	1,059



## 2007年3月期 業績予想サマリー

- 1) 売上高 2兆円超、営業利益・経常利益 1,350億円、純利益 890億円
- 2) 海運業部門：円高、燃料油高に加え、市況軟化で減益
- 3) 非海運部門：物流の成長が続くほか、ターミナル・客船は着実に改善、NCAは黒字化を目指す
- 4) 為替・燃料油前提：

為替レート	¥110.00の円高（対前年比 ¥3.09 の円高）
燃料油価格	\$330.00/MT高（\$46.92/MT の燃料油高）
- 5) 配当予想：年間18円配当を維持

# 2007年3月期業績予想

(億円)

	06/3期(実績)			07/3期(予想)			増減		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	8,995	10,298	19,293	10,000	10,200	20,200	1,005 11%	▲ 98 -1%	907 5%
営業利益	805	600	1,405	610	740	1,350	▲ 195 -24%	140 23%	▲ 55 -4%
経常利益	792	612	1,405	630	720	1,350	▲ 162 -20%	108 18%	▲ 55 -4%
純利益	484	437	921	410	480	890	▲ 74 -15%	43 10%	▲ 31 -3%

為替	¥109.39	¥116.79	¥113.09	¥110.00	¥110.00	¥110.00	¥0.61	¥-6.79	¥-3.09
燃料油	\$259.84	\$306.32	\$283.08	\$330.00	\$330.00	\$330.00	\$70.16	\$23.68	\$46.92

為替前提 : 110.00円/\$  
 燃料油価格前提 : \$330.00/MT



# 前期比増減分析

(億円)

円高	▲ 53	@ ¥ 110.00 / ¥ 3.09 の円高
燃料油高	▲ 141	@ \$ 330.00 / \$ 46.92 の燃料油高
海運市況変動など	▲ 56	運賃率(マーケット)、積高増など
非海運部門の改善	84	非海運5部門合計
コスト削減	110	海運 90億円、非海運 20億円
新規連結	0	
合計	▲ 55	

## 経常利益(年間)に対する感応度

為替            1円の円高で約 17 億円の減益

燃料油        \$ 1/MTの燃料油価格上昇で約 3 億円の減益



# 2007年3月期業績予想 (セグメント別)

(億円)

売上高	定期船	その他海運	物流	ターミナル	客船	不動産	その他	消去・全社	連結
06/3期実績	5,392	6,777	4,264	1,115	408	125	2,343	▲ 1,131	19,293
07/3期予想	5,519	6,904	4,734	1,156	400	124	2,714	▲ 1,352	20,200
上期予想	2,743	3,412	2,287	582	226	61	1,331	▲ 642	10,000
下期予想	2,776	3,492	2,447	574	174	63	1,383	▲ 710	10,200
増減	128	127	470	41	▲ 8	▲ 1	372	▲ 222	907

経常利益	定期船	その他海運	物流	ターミナル	客船	不動産	その他	消去・全社	連結
06/3期実績	175	1,082	130	22	▲ 2	34	▲ 37	0	1,405
07/3期予想	79	1,020	171	37	10	35	▲ 2	0	1,350
上期予想	36	477	74	22	30	18	▲ 27	0	630
下期予想	43	543	97	15	▲ 20	17	25	0	720
増減	▲ 96	▲ 62	41	15	12	0	35	0	▲ 55

(売上高)	07/3期	06/3期	増減	増減率
不定期船	5,749	5,641	108	2%
タンカー	1,155	1,136	19	2%
	6,904	6,777	127	2%

# セグメント別状況 ①

## 1. 海運業 — 1)

コンテナ船：北米・欧州航路ともスラック・シーズンの荷動きが堅調、欧州航路では運賃市況反転の兆し。

輸送量実績(千TEU)

	05/3期 (実)	06/3期 (実)	増減	(%)	07/3期 (予)	増減	(%)
アジア→北米	656	702	46	7.0%	773	71	10.2%
(消席率)	89%	86%			88%		
アジア→欧州	355	403	48	13.6%	466	63	15.6%
(消席率)	91%	90%			92%		

自動車船：本年後半より新造船の大量竣工始まる。

輸送台数実績(万台)

	05/3期 (実)	06/3期 (実)	増減	(%)	07/3期 (予)	増減	(%)
全航路	256	286	30	11.7%	306	20	7.0%



# セグメント別状況 ②

## 1. 海運業 - 2)

### バルク・エネルギー輸送部門の市況動向(指数)

	2004年度	2005年度			2006年度	
		(前提)	(実績)	差	(予想)	差
撒積船(ケープサイズ)	100	90	64	▲ 26	50	▲ 14
撒積船(ハンディサイズ)	100	90	73	▲ 17	65	▲ 8
VLCC	100	75	69	▲ 6	60	▲ 9

撒積船 : 市況軟化を予想。  
 ケープは長契主体の運営と船隊拡充で増益。  
 ハンディは市況軟化の影響で減益。

タンカー : 市況下落を船隊拡充で補い微減益。



# セグメント別状況 ③

## 2. 物流事業

### 1) NYK Logistics(陸上物流部門):

New Horizon 2007 に沿った収支改善計画により、  
**今期は下期にかけて黒字幅を拡大する見通し。**

	05/3期(実)	06/3期(実)	07/3期(予)
経常利益	▲ 13 億円	36 億円	75 億円
前年比		49 億円	39 億円

### 2) YAS(航空フォワーダー部門):

YAS Global Challenge に沿った利益拡大計画を推進。

	05/3期(実)	06/3期(実)	07/3期(予)
経常利益	94 億円	94 億円	96 億円
前年比		0 億円	2 億円

## セグメント別状況 ④

### 3. ターミナル事業

#### 1) 中国・大連港において港湾事業拡大

- 大連ROROターミナル(当社30%出資)が共用開始
- 大連港集団・子会社(コンテナ・石油ターミナル運営  
+物流事業展開)に戦略的投資

#### 2) セレス・パラゴン・ターミナルに新ループ誘致に成功。

### 4. 客船事業

クリスタル2船体制および飛鳥Ⅱが順調なすべり出し。



# New Horizon 2007の進捗①

---

- 1) 事業環境の変化、事業基盤の拡大を反映した原計画のBRUSH UPに着手  
(詳細は、本年11月に発表予定)
- 2) 初年度(2005年度)実績を踏まえた現時点での最終年度までの数値予想



# New Horizon 2007の進捗②

## ①業績予想

	2005年度 実績	2006年度 予想	2007年度 予想
売上高	19,293	20,200	20,300
事業利益	1,561	1,580	1,650
経常利益	1,404	1,350	1,400
当期純利益	921	890	900

(計画の前提)

為替 ¥113/\$ ¥110/\$ ¥110/\$  
 バンカー \$283/MT \$330/MT \$330/MT

(億円)

	2005年度 計画	2006年度 計画	2007年度 計画
売上高	16,400	17,500	18,000
事業利益	1,650	1,750	1,750
経常利益	1,500	1,600	1,600
当期純利益	900	950	950

為替 ¥100/\$ ¥100/\$ ¥100/\$  
 バンカー \$200/MT \$200/MT \$200/MT

## ②財務数値推移

	2005年度 実績	2006年度 予想	2007年度 予想
期末有利子負債	7,660	8,800	9,700
期末株主資本	5,754	6,330	6,800
株主資本比率	31%	31%	31%
DER	133%	139%	139%
営業キャッシュ・フロー	1,149	1,400	1,660
投資キャッシュ・フロー	-1,705	-2,550	-2,540

(億円)

	2005年度 計画	2006年度 計画	2007年度 計画
期末有利子負債	6,100	6,100	6,300
期末株主資本	4,800	5,570	6,330
株主資本比率	32%	35%	38%
DER	127%	110%	100%
営業キャッシュ・フロー	1,480	1,550	1,630
投資キャッシュ・フロー	-1,130	-1,520	-1,860



# 船隊整備計画

## 船隊規模と新造船投入隻数/投資額（連結）

	2004年度	2005－2007年度	
ドライバルカー タンカー LNG船 etc.	(2004年度末) <b>371隻</b>	新造船 <b>106隻 4,900億円</b>	(2007年度末) <b>490隻</b>
コンテナ船 在来船 自動車船 etc.	(2004年度末) <b>275隻</b>	新造船 <b>59隻 3,100億円</b>	(2007年度末) <b>310隻</b>
合計	(2004年度末) <b>646隻</b>	新造船 <b>165隻 8,000億円</b>	(2007年度末) <b>800隻</b>

船隊整備については自社保有及びリース・傭船をバランスよく組み合わせを進めていく

# NCA 2006年3月期決算サマリー

## 1. NCA 06/3期決算

(億円)

		前回予想 通期	06/3期実績			増減
			上期	下期	通期	
当社(連結) への影響額	売上高	557	-	557	557	▲ 0
	経常利益	▲ 67	▲ 19	▲ 48	▲ 67	▲ 0
NCA (個別)	売上高	1,037	480	557	1,037	-
	経常利益	▲ 104	▲ 56	▲ 48	▲ 104	-

本年2月に発表した修正予想通りの結果。

# NCA Phoenix Project

## 2. NCA Phoenix Project 業績目標

	Phase-1			Phase-2	Phase-3
	07/3期	08/3期	09/3期	12/3期	16/3期
売上高（億円）	1,100	1,200	1,250	2,000	3,100
経常利益（億円）	2	30	70	180	370
自社機材数	10	9	8~10	16~18	22~24
自社機材平均機齢	11.8	7.8	2.1	3.5	3.8

為替前提 : JP¥ 110/US\$

燃料油価格前提 : US\$ 74.0/バレル(シンガポール・ケロシン)

**2015年度には、IATA国際航空貨物取扱い量順位で  
10位以内に！**

# NCA Phoenix Project

## 3. Phoenix Project 達成のための施策

- 収支構造の変革
  - ⇒ 新鋭機材による競争力あるフリートへ早急に更新
- 運航/整備体制の自立化
  - ⇒ 貨物専門航空会社としての効率的オペレーションを展開
- 事業本部制導入とグローバル3極体制構築
  - ⇒ 責任明確化により迅速かつ強力な実行体制を実現
- ネットワークの拡充
  - ⇒ アライアンス・提携強化によるサービスの拡大・向上
  - ⇒ 新鋭機材により内外空港の整備・拡大への的確に対応

## 郵船ヤマト 戦略的提携 ①

“日本郵船グループとヤマトグループは、  
戦略的提携（業務提携・資本提携）で合意“

### 業務提携

- ・ 「郵船ヤマトグローバルソリューションズ(株)」設立  
⇒ 双方の経営資源を活用した新規物流サービス開発
- ・ 航空フォワーディング事業の一体的運営

### 資本提携

- ・ グループ会社を含め100億円規模の資本提携実施

## 郵船ヤマト 戦略的提携 ②

### 1) 業務提携

- (a) 「郵船ヤマトGS社」をプラットフォームとして、両グループの経営資源を活用し、手始めに新規物流サービスを開発
- 国際物流における一貫輸出入ロジスティクスサービス
  - 中国市場をターゲットとする企業間物流サービス
  - ICタグを利用した輸送部材管理・リースサービス
- (b) 航空フォワーディング事業の一体的運営
- 航空貨物の CO-LOAD(共同混載)開始
  - 国際一貫輸送オペレーションを行う共同事業会社設立
  - 「提携推進委員会」の設立

## 郵船ヤマト 戦略的提携 ③

### 2) 資本提携

#### (a) 当社による株式取得および出資

ヤマトHDの株式取得	60億円
郵船ヤマトGS社への出資	10億円
ヤマトロジスティクス(株)の株式取得	30億円

#### (b) ヤマトHDによる株式取得および出資

日本郵船の株式取得	60億円
郵船ヤマトGS社への出資	10億円
郵船航空サービス(株)の株式取得	20億円
日本貨物航空(株)の株式取得	10億円

## 郵船ヤマト 戦略的提携 ④

### 3) 戦略的提携の効果

- (a) **郵船ヤマトGS社による新規物流サービス開発**  
2009年度に、売上高170億円、経常利益15億円
- (b) **航空フォワーディング事業の一体的運営**  
郵船航空サービスとヤマトロジスティクスの事業の一体的運営
- (c) **戦略的提携の更なる発展**  
共同の運営委員会を通じた提携の深化により、グローバルな総合物流事業におけるリーディングポジション確立と、一層の顧客サービス充実を図る